

令和8年度（2026年度）新規研究課題

課題番号：R08-08

課題名：花き農家の所得向上を実現する県オリジナルリンドウの
高温期安定生産技術および省力性・耐暑性品種の開発

研究期間：令和8年～令和12年（2026年～2030年）

研究担当：農林業技術部 花き振興センター

1 背景

県では、リンドウを収益性の高い水田転作品目として位置付け、生産振興を図っている。センターでは、これまでに全国に先駆けて出荷できる極早生品種「西京の初夏」をはじめとして、西京シリーズ7品種を育成し、普及を図っている。

しかし、生産現場では、近年の夏場の高温による生育不良や欠株が深刻な問題となっている。

2 目的

本研究では、育苗から夏越しまでの高温期安定栽培技術を確立するとともに、省力性・耐暑性を備えた新品種を開発し、生産効率を高めることで、花き農家の所得向上と県内リンドウ生産の拡大を図る。

3 研究概要

（1）高温期安定生産技術の開発

高温に耐える強健な苗を育成するため、育苗環境の最適化や根系の発達を促進する技術を確立し、定植後の欠株リスクを低減する。

さらに猛暑による生育停滞や枯死を防ぐため、春季早期定植や複数本仕立て、大苗の秋定植など、高温期を乗り切るための栽培管理技術を体系化する。

（2）省力性・耐暑性品種および需要期出荷品種の開発

既存の系統から特性の優れた母本を選定し、側枝が発生せず、全ての花蕾が同時に開花する省力性と耐暑性に優れた新品種の育成する。

4 研究のポイント

育苗技術と夏越し技術、品種開発を組み合わせることで、高温による欠株や品質低下を抑制し、猛暑下においても収量が安定する強靱な生産体系を構築する。

花き農家の所得向上を実現する県オリジナルリンドウの 高温期安定生産技術および省力性・耐暑性品種の開発

農林業技術部 花き振興センター

【研究内容】

- 1 高温期安定生産技術の開発
- 2 省力性・耐暑性品種および需要期出荷品種の開発

高温期安定生産技術の開発

育苗環境最適化技術



根系発達促進技術



定植前硬化処理



活着促進処理

→ 高品質な健苗育成技術の確立

栽培技術の技術



春季早期定植栽培技術



複数本仕立て栽培技術



大苗秋定植栽培技術

→ 夏場の欠株を回避する栽培技術の確立

省力性・耐暑性品種および需要期出荷品種の開発



優良母本の選定



戦略的な交配と選抜（無側枝性、全花蕾の同時開花性、高温耐性）



→ 省力性・耐暑性に優れた新品種の育成

【目標】

- ・2年生株の収穫可能株率：90%以上
 - ・収益性を10%以上向上させる品種：2品種育成
- 猛暑でも安定生産を実現し、所得向上と生産拡大へ